



# 市営バスが廃止になります

七十四年間、市民の足として、多くのお客さまを運んだ市営バス。その歴史と廃止に至る経緯を紹介いたします。

## ■市営バスの歴史

昭和二年の路面電車事業から始まった市営交通は、昭和五年にバス事業を開始。市の成長とともに路線が市内に広がり、路面電車と市営バスは市内の公共交通の中心となりました。昭和四十六年には、札幌冬季オリンピック開催に合わせて地下鉄南北線の運行が開始されます。その後、地下鉄路線の広がりとともに、バス路線は地下鉄駅に連絡する形で再編成され、公共交通の中心はバス、路面電車から地下鉄に移っていきま

## ■廃止に至るまで 市営バスの現状

最近の市営バスは、乗車料金だけでは経費を賄えず、非常に厳しい経営状況が続いていました。近年、通勤、通学に家用車を使用する方の増加、また、週休二日制や少子化の影響などにより、市内の公共交通の利用者は年々減る傾向にあります。今後、市の人口が大幅に伸びることは考えられないことから、利用者の増加は期待できません。十四年度では市営バス事業に、二億六千万円の税金を投入したにもかかわらず、二十一億四千万円(退職金を除く)の赤字となっています。

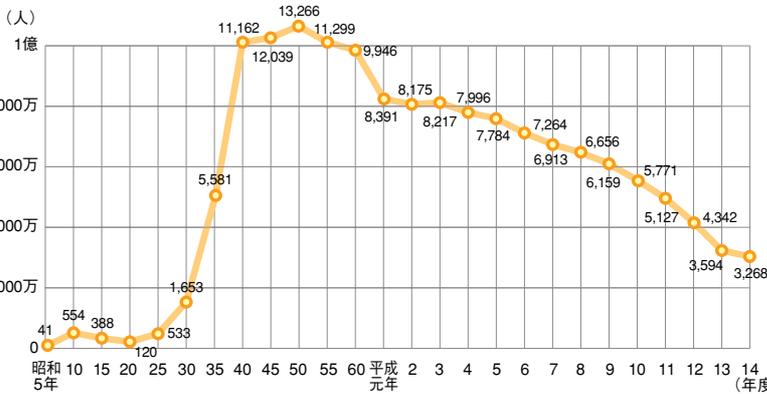
平成十四年二月には、道路運送法の改正により規制緩和が行われ、路線の新設・廃止のほか、料金の変更などが原則自由になりました。そのため、各バス事業者が利用者の要望にあった路線設定や料金値下げなどさまざまなサービスを行うことで、今後、競争が激しくなることが想定



混雑する北海道博覧会会場(真駒内)行きのバスのりば(昭和43年)

されます。民間バス事業者が市営バス路線と競合することも想定され、市営バスは民間バス事業者のコストには対抗することは難しいと考えられます。平成十二年度に行った民間調査会社の調査でも、今後、赤字に転換する見込みはないとの結果が出ています。

## ■市営バス年間輸送人員の推移



## ■民間バス事業者に路線を移行し、74年の歴史に幕

この調査などを受けて、市では平成十三年十二月に発表した交通事業改革プランの中で、市営バス路線を民間バス事業者へ移行しバス事業を廃止することを決定しました。そして、平成十五年四月一日に琴似営業所十九路線がジェイ・アール北海道バスに、藻岩営業所九路線がじょうてつバスに移行され、残る新川営業所六路線、東営業所十二路線も十六年四月一日に北海道中央バスへ移行されることとなります。市民の足として、多くの皆さんに利用していた市営バスの七十四年の歴史に三月三十一日、幕が下ろされます。



なじみのある赤とクリーム色のバス。一番長く続いたデザインでした